

知多地域で飼料用米品種「愛知125号」の多収性を実証

～「愛知125号」を導入して収益力を向上～

野村朋史（知多農林水産事務所農業改良普及課）

【平成28年3月15日掲載】

【要約】

経営所得安定対策では、飼料用米の生産に対して、収量に応じて交付金が交付されている。このため、収量性の高い品種を導入することは、収益の向上に繋がる。愛知県農業総合試験場で育成された多収性品種「愛知125号」について、知多地域における適応性を確認するため現地試験を実施した。その結果、「愛知125号」は当地域においても収量性が高いことが確認されたので、今後、飼料用米品種として普及拡大が期待される。

1 はじめに

近年の米価の低迷により、水田作経営における飼料用米の重要性が高まっている。

農林水産省は、飼料用米の生産・利用拡大を推進するため、水田活用の直接支払交付金に数量払いを導入し、10a当たり最大105千円を助成するとともに、産地交付金では飼料用米の多収性専用品種での取組に対して10a当たり12千円を追加交付し、専用品種への作付けを誘導している。愛知県農業総合試験場で育成された多収性品種「愛知125号」は知事特認品種として認定されており、産地交付金の12千円の追加交付の対象である。

このため、知多地域で既に導入されている飼料用米品種「モミロマン」と「愛知125号」との比較を行い、「愛知125号」の収量性を確認した。

2 試験区の構成と調査方法

常滑市本郷町において、「愛知125号」の対照区として「モミロマン」を用い、不耕起V溝直播栽培（以下「V直栽培」という。）と移植栽培で試験を実施した（表1）。

成熟期調査では、稈長、穂長、穂数に加え脱粒性を測定し、収穫物調査では、わら重、精玄米重、くず米重、千粒重を測定した。

表1 使用品種、栽培方法、使用肥料及び施用量

区名	品種名	栽培方法	使用肥料	施用量
愛知125号(V)	愛知125号	不耕起V溝直播	乾田直播くん中生用	30kg/10a(N:12.3kg/10a)
モミロマン(V)	モミロマン	不耕起V溝直播	乾田直播くん中生用	30kg/10a(N:12.3kg/10a)
愛知125号(移)	愛知125号	移植	側条エース中生用	50kg/10a(N:12.0kg/10a)
モミロマン(移)	モミロマン	移植	側条エース中生用	50kg/10a(N:12.0kg/10a)

注) (V) : V直栽培 (移) : 移植栽培

3 結果

(1) 成熟期調査

「愛知125号」の穂長はV直栽培が27.6cm、移植栽培が28.2cmであり、「モミロマン」に比べてV直栽培で4.0cm、移植栽培で4.5cm長かった。「愛知125号」の穂数はV直栽培が335本/m²、移植栽培が340本/m²であり、「モミロマン」よりV直栽培で90本/m²、移植

栽培で37本/m²多かった。倒伏は、「愛知125号」及び「モミロマン」ともに認められなかった。また、「愛知125号」の脱粒数は、V直栽培が6.8粒/15穂、移植栽培が8.5粒/株であり、「モミロマン」よりV直栽培で6.6粒/15穂、移植栽培で8.3粒/株多かった(表2)。

表2 成熟期調査結果(調査日:10月16日)

区名	稈長	穂長	穂数	倒伏程度*	脱粒数**
	cm	cm	本/m ²		
愛知125号(V)	90	27.6	335	0	6.8
モミロマン(V)	88	23.6	245	0	0.2
愛知125号(移)	89	28.2	340	0	8.5
モミロマン(移)	97	23.7	303	0	0.2

注) * 倒伏程度:無(0)~甚(5)

**脱粒数の単位は、V直栽培が15穂、移植栽培は1株あたり

(2) 収穫物調査

「愛知125号」の精もみ重はV直栽培が894kg/10a、移植栽培が873kg/10aであり、「モミロマン」よりV直栽培で105kg/10a、移植栽培で116kg/10a多かった。同様に、「愛知125号」の精玄米重はV直栽培が613kg/10a、移植栽培が629kg/10aであり、「モミロマン」よりV直栽培で138kg/10a、移植栽培で258kg/10a多かった。「愛知125号」のくず米重はV直栽培が49kg/10a、移植栽培が40kg/10aであり、「モミロマン」よりV直栽培で29kg/10a、移植栽培で96kg/10a少なかった(表3)。

表3 収穫物調査結果(収穫日:10月16日)

区名	わら重	精もみ重	精玄米重	くず米重	千粒重
	kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a	g
愛知125号(V)	1,016	894	613	49	23.8
モミロマン(V)	688	789	475	78	23.4
愛知125号(移)	1,108	873	629	40	24.2
モミロマン(移)	864	757	371	136	24.0

注) 水分14.5%で換算

ふるい目は1.8mmを使用



写真1 愛知125号(V直栽培)

4 考察

V直栽培と移植で「愛知125号」と「モミロマン」の成熟期及び収穫物の調査結果の傾向は類似していた。「愛知125号」の精玄米重は、「モミロマン」よりV直栽培で1.3倍、移植栽培で1.7倍多かった。これは、V直栽培、移植栽培ともに「愛知125号」は「モミロマン」より穂長が長かったことに加え、穂数も多かったためと考えられた。

試験の結果、V直栽培、移植栽培のいずれも「愛知125号」の多収性を実証できたが、特に、移植栽培において収量性は高くなった。

なお、精玄米重の差から試算すると、10a当たりの水田活用の直接支払交付金は、「愛知125号」は「モミロマン」より、V直栽培で約23千円、移植栽培で約43千円多く交付される結果となった。

脱粒性調査による脱粒もみ数は、「愛知125号」で7.7粒、「モミロマン」で0.2粒であり、「愛知125号」の方が脱粒性が高かったが、実用的には問題のない範囲と考えられる。収穫後にほ場に落ちたもみ数の調査は未実施であるが、栽培した農家への聞き取りでは、「愛知125号」の脱粒による収量への影響は小さいとの意見であった。

以上のことから、今後、当地域において「愛知125号」は飼料用米品種として普及拡大することが期待される。